

校長室より

第73号

「天空高き」



平成27年7月10日

国・県を動かすー選挙権 18 歳にー

今国会で、選挙権を18歳へ引き下げる「公職選挙法改正法案」が可決されました。昭和20年の衆議院議員選挙法の改正で、それまでの25歳から満20歳に引き下げられて以来の変更です。来年(2016年)の参院選から、18歳以上の国民に選挙権が与えられることとなります。発端は、去年の6月に憲法改正国民投票法が公布され、施行から4年後、つまり2018(平成30)年の6月以降に憲法改正の国民投票が行われることになれば、投票資格がそれまでの「20歳以上」から「18歳以上」に、2歳下げられることになったからです。



現在、選挙権年齢のデータがある192カ国で、18歳以下に選挙権が与えられている国は、170カ国にも上ります。成人が2歳若返ることで、改正後の選挙では、有権者が240万人増える予定だそうです。

来年の参議院選挙では、高校3年生全員と2年生以上で来年の6月の選挙日の前日までに誕生日を迎える人に選挙権が与えられます。私が20歳になり、初めて選挙の投票に行ったことが、今でも鮮明に思い出されます。皆さんが、早い時期から政治や選挙に関心を持つことはとても大切なことです。できるだけたくさんの情報を集めて、自らの判断で一票を投じてください。それが、日本の民主主義を守っていく上で一番大事なことだと思います。

朝の読書ーみんなで読む・毎日読む・好きな本を読む・ただ読むだけー

学校が「朝の読書」で始まり、生徒が全員落ち着いた気持ちで授業に臨んでいます。

みんながひとりを、ひとりがみんなを大切にするクラス、学びの舎であって欲しいと思います。

長い人生には様々な試練が訪れます。一冊の本が渴いた心を潤し、折れた心を蘇らせます。一冊の本が生き方を示唆し、命を救ってくれます。

そんな高水の、朝の読書であって欲しいと思います。



人生、やるかやらないかー画家 後藤はつのさんー

後藤はつのさんは、今年で112歳を迎えられます。

73歳で絵を習い始め、80歳代から99歳まで油絵を描き、展覧会にも出展されてきました。

96歳の時に描かれた「明治42年の遠足苗名の滝」の作品で文部大臣奨励賞を受賞されました。

100歳を前に絵筆を握らなくなった後も個展を開催され、平成23年には第11回ニューエルダーシチズン大賞（社会貢献や趣味などに取り組み、積極的に人生を切り開く70歳以上の高齢者を対象に表彰）を受賞されました。

彼女曰く、「何事もできるかできないかでなく、やるかやらないかだ」という言葉は、人は何歳になっても、挑戦する心を失わなければ輝いて生きることを、教えてくれます。



はつのさん、90歳の時の作品「柿もぎ」の前で

人生、起こることすべて必然ー人生はポジティブにー

ある高名な方が、「この世で起こることはすべて必然的に起きるのであって、偶然に起きることはひとつもありませんよ」と言っておられました。

皆さんは、この言葉をどう思いますか。

「今起きていることは、すべて自分自身が選んだことだ」という心境には、なかなかなれるものではありませんね。

レントゲンという人を知っていますか。X線の発見者として第1回ノーベル物理学賞を受賞した科学者です。

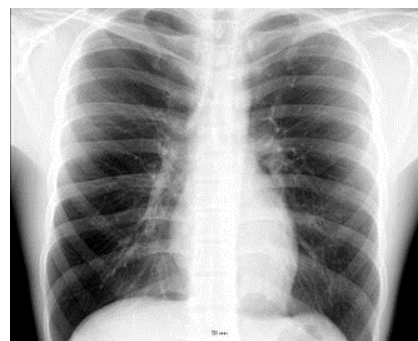
彼はオランダで育ちますが、大学受験を間近に控えた高校最終年のとき、悪戯（いたずら）をした友達をかばったという些細（ささい）な理由で、高校を退学させられてしまいます。オランダでの大学進学の実夢破れた彼は、しかたなくスイスへ行きます。

そしてスイスで大学へ入り、そこで生涯の師となるクント教授に出会います。

もし、この出会いがなければ、栄（は）えあるノーベル賞学者レントゲンは存在しなかったらと言われていました。

人生にはこういうことがよくあります。

この世で起きていることはすべて “神や仏の計らい” であるならば、どんな些細な



人生は負けたら終わりなのではない。やめたら終わりなのだ。
リチャード・ニクソン

ことにも何らかの意味（それぞれが役割を担う）があり、起こったことに対して自分の思い通りにならなかったとあって、腹を立てたり、人のせいにしては、また同じことの繰り返しになります。起きたことを素直に受け容れて、起きた意味に気づいたら、人は次のステップに進めることができます。

「今起きていることは、すべて必然であり、正解である」、と納得したとき、ひとすじの希望の光が見えてくるのではないのでしょうか。

コーヒーフレイク ー子どもと大人の時間の感覚ー

学校の前に立っていると、愛宕小学校の児童たちも元気な挨拶をして登校しています。彼らの登校風景は様々です。楽しそうにおしゃべりをしながら登校している女の子のグループ。小競り合いをしながら登校している男の子のグループ。寄り道をしながらのグループもいれば、1人で黙々と歩いている子もいます。

私の幼少時代は、1人寄り道をしながらのんびり登校していたような気がします。



ところで、皆さん、幼稚園や小学校の時は一日が随分長いように感じませんでしたか。今の私は、瞬く間に1日が過ぎ去るように感じます。中・高生の皆さんは幼少時代と今とでは、1日や1年の長さをどのように感じていますか。

ジャーネー（19世紀のフランスの哲学者）は、主観的に記憶される年月の長さは、年少者にはより長く、年長者にはより短く評価されるという現象を、心理学的に説明しました。簡単に言えば、生涯のある時期における時間の心理的長さは、年齢の逆数に比例する（年齢に反比例する）ということです。

例えば、50歳の人にとって1年の長さは、人生の50分の1になり、5歳の人にとっては、5分の1になります。ですから、50歳の人にとっての1年間は、5歳の人には10年間に当たります。5歳の人1日は、50歳の人にとっては10日に相当する、ということになります。つまり、生きてきた年数によって1年の相対的な長さがどんどん小さくなり、時間が早く感じるということになります。

また、その他の心理的要因として、高齢者が時間が過ぎるのが早く感じる理由に、毎日の生活に新鮮味が少なくなることもあるのではないかと考えられています。

いずれにしても、何もしていないと時間はあっという間に過ぎ去ってしまいます。この夏休み、進学や就職を控えている3年生にとっては正念場ですが、目標を持って、1日を、1週間を、1ヶ月を、充実した生活にしてもらいたいと思います。

二十四節気 小暑（しょうしょ） 7月7日頃

この日から暑気に入り、本格的な暑さが始まるとされます。海水浴場では「海の家づくり」が始まる頃です。徐々に梅雨も明け始めます。暑中となり、暑中見舞いも出されるようになります。 【出典：ちょっと便利帳】

紫陽花—アジサイ科アジサイ属—

もう少しで梅雨も明けますが、梅雨の花といえば、紫陽花ですね。

アジサイは、アジア、北アメリカに約 40 種類が分布する落葉低木樹です。

日本には約 10 数種があります。アジサイの花は両性花(完全花)と装飾花(不完全花、中性花)の 2 種で構成されています。両性花は生殖能力のある、いわば花の本体で、雄しべと雌しべを持ちますが、開花してもあまり目立ちません。装飾花は大きな花びら(じつはガク)をもっていますが雄しべや雌しべが退化しており、実を結ぶことはありません。アジサイの花を見て多くの人が「外見上の花」と認識している部分は、たいがい装飾花だと思います。

土の酸度がひとつの要因となって(装飾花の)花色が変化し、アルカル性で赤っぽく、酸性で青っぽくなるとされます。その性質を利用して西洋アジサイは酸度調整によって花色を変化させた鉢花が出回ります。

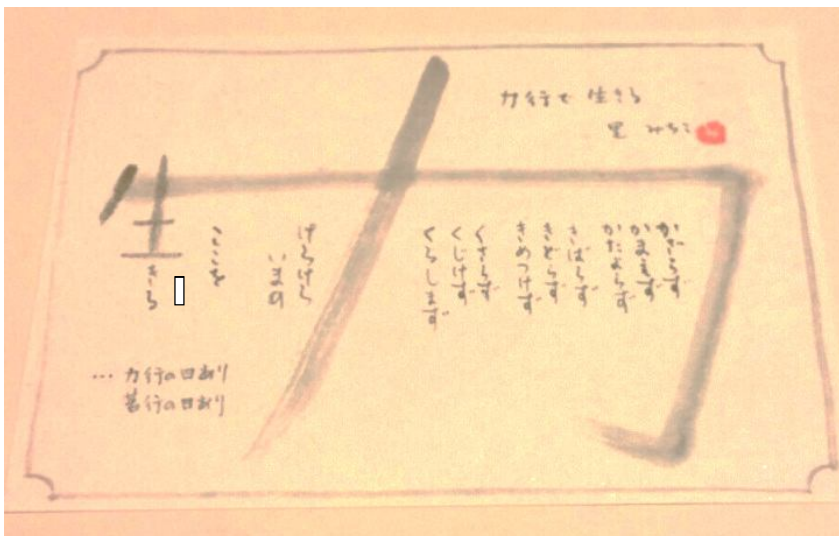


これは、「ガクアジサイ」です。右側の大きい4枚の花びらは、実は、「がく」です。4枚の花びらの中央にある小さなものが花びらです。大きな萼(がく)を持っているのを「飾り花：装飾花」と呼びます。左側に見えている小さいのが普通の花です。この花の萼は花びらに隠れて見えなくらい小さいものです。

力行(ぎょう)で生きる 一里 みちこー

里みちこさんは大阪城公園で毎朝、午前6時50分から10分間の「詩語り」をしています。20年近く、ほぼ無遅刻無欠席で続けています。

彼女は、「学歴やら知識ではなく、学ぶということが生きることと暮らすことと直結しなければ、何もならないんです」とコメントされています。



力行で生きる
かざらぬ かまえぬ かたやらぬ
きぼうぬ きごうぬ きめつけぬ
くさうぬ くしけぬ くろしきぬ
けろけろ いまの
ここを生きる